

海上保安学校学生との連携による保育所行事の運営について ～社会全体で子どもを育むまちづくり～

先般の海上保安学校の学生による舞鶴市立中保育所での環境整備ボランティアを契機に、両機関の間で新たな地域連携の芽が生まれました。

この貴重なご縁を継続・発展させるため、7月11日(土)に開催する保護者参加型行事において、海上保安学校の学生に「運営スタッフ」として参画していただくことになりました。

この取り組みは、下記の3つの意義を同時に達成し、舞鶴市が目指す「社会全体で子どもを育むまちづくり」の推進に大きく寄与するものと考えています。

- 1.目的 社会全体で子どもを育むまちづくりの推進
- 2.日時 令和8年7月11日(土) 9:00～10:30
- 3.場所 舞鶴市立 中保育所
- 4.主催者 舞鶴市立中保育所、保護者会
- 5.参加人数 在園児40名、保護者等50名、海上保安学校学生15名 程度
- 6.内容 水遊び、感触遊び、ヨーヨーつり、物作り(うちわ)、スタンプラリー、ボウリング 他
《保安学校学生の主な役割》
保育士と協働し、保護者や園児の誘導、機材や道具のセッティング、熱中症対策の補助、レクリエーション中の安全監視、子どもたちへの声かけなど

7.参加意義

海上保安学校・学生における意義

- ・ライフデザインの構築と少子化問題への当事者意識の醸成
仕事と育児を両立する「親のリアルな姿」を間近で体感し、学生自身が将来の家庭像やライフプランを具体的に描く契機となり、少子化問題に対して主体的な関心と当事者意識を持つ
- ・地域住民に寄り添うコミュニケーション力の熟成
地域住民(特に子どもや保護者)と直接触れ合い、安全をサポートする経験を通じて、将来の海上保安職務に不可欠な「住民に寄り添い、信頼される姿勢」を養う。

保護者における意義

- ・地域社会とのつながりによる子育ての「安心感」の獲得
育児における孤独や不安を和らげるため、未来の海上保安官が行事を力強く支える姿を通じ、「地域や社会全体が子育てを応援している」という心強さと大きな安心感につながる。

保育所職員における意義

- ・保育環境の安全性向上と、保護者支援への集中・質の向上
学生のマルチな運営サポートにより、園児の絶対的な安全を確保することができ、職員は「保護者との密なコミュニケーション」や「子どもの成長を共に喜び合う時間」により深く注力できる環境を整えることができる。



まち
この舞鶴に
北陸新幹線を。

舞鶴市立中保育所(担当: 藤村、堀田)
〒625-0087 舞鶴市字余部下1063番地
TEL: 0773-62-0292、FAX: 0773-62-0292
E-mail: naka-ho@city.maizuru.lg.jp